Newsletter of the Tottori Prefectural Museum TAKARAGURA
鳥取県立博物館ニュースレター

宝蔵 No. 1

MARCH 2025
令和7年3月発行

鳥取新府久松金城（部分、鳥取県立博物館蔵）

P.2 鳥取県の『宝蔵』としての新たなスタート

P.4 学芸員のイチオシ！これ注目 展示活動室の所蔵品紹介

P.7 企画展 令和7年7月12日(土)～9月15日(月・祝)
「とことん！昆虫展」

P.8 企画展 令和7年10月19日(日)～12月7日(日)
「大カプコン展 ―世界を魅了するゲームクリエイション(仮)」

鳥取県立博物館は
2025年5月1日(木)から再開します。
※2025年2月17日(月)～4月30日(水)は休館します。

鳥取県立博物館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM

鳥取県の『宝蔵』としての新たなスタート

鳥取県立博物館は、令和7年3月30日に鳥取県立美術館が開館することに伴い、自然史、歴史、民俗、美術工芸の総合博物館として新たなスタートを切ります【表1参照】。これまで当館は、昭和47年（1972年）に鳥取城跡内に開館して以来、自然、歴史・民俗、美術の3分野の博物館として活動してきましたが、美術分野は県立美術館として独立します。そこで、これまで果たしてきた役割や機能を再確認しつつ、時代に即した新たな視点も加え、理念と使命を策定しました【概念図参照】。

理念は、「鳥取県の『宝蔵（たからぐら）』：鳥取県の過去を知り、ともに未来を考えていく博物館」です。『宝蔵』は、19世紀半ばの鳥取城内に実在していた「御宝蔵」という建物にちなみました。この蔵には、現在県外の機関が所蔵する国重要文化財や、県立博物館に引き継がれている初代藩主池田光仲直筆の和歌などが収められており、「御宝蔵」は県立博物館の前身とも言えます。この「御宝蔵」を理念の根幹にすえることで、県民の財産である資料をいつまでも保存し続けることを表明しました。『宝蔵』は単に資料を納めておくだけの蔵ではなく、収集した資料を適切に保存・管理し、誰もがいつでも利活用できる新しいしくみを持った蔵としていきます。このことで、鳥取県の過去を知り、ともに未来を考えていけたらと思っています。

この理念のもと、具体的に実現していくべき使命を5つ定めました【表2】。これを実現することにより、県民が楽しく学び、感動を覚えるような「魅力ある県立博物館」となり、まちづくりなどの地域の多様な分野にも貢献していきます。

表1　鳥取県立博物館が収集・保存する資料

自然史	鳥取県に関連する自然界の歴史の証左となる岩石、化石、生物などの標本や写真などの資料
歴史	鳥取県に関連する考古遺物（出土品、伝世品など）や中世から近代までの史資料（古文書、古典籍、公文書、図書、写真、映像など）
民俗	鳥取県および周辺地域で伝承されてきた有形・無形の民俗事象（衣・食・住、農具・漁具・製紙用具、芸能、儀礼・信仰など）
美術工芸	鳥取県に関連する歴史的または芸術的価値の高い作品（宗教美術、武具甲冑、刀剣など、ならびに鳥取藩ゆかりの絵師の作品や当時の美術工芸品、鳥取市ゆかりの民芸品や工芸品など）

概念図　鳥取県の過去を知り、ともに未来を考えていく博物館

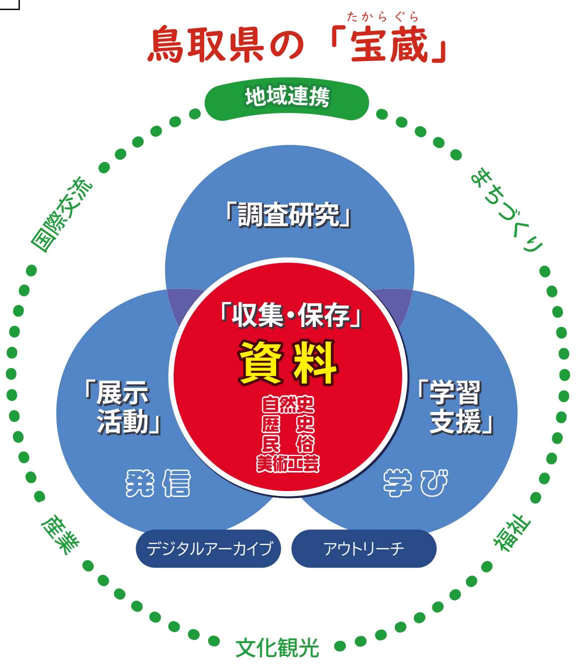


表2　使命

■収集・保存	鳥取県の過去（自然史、歴史、民俗、美術工芸の資料）を、県民一人一人の財産として収集し、適切かつ安全な環境の下で、保存します。
■調査研究	資料の調査研究を継続するとともに、館内外で円滑・適切な調査研究活動が展開できる機能や環境の整備に取り組みます。また、調査研究の成果については、積極的に県民に還元します。
■展示活動	資料を専門分野ごとに詳しく、分かりやすく解説することはもとより、異なる分野が融合した博物館として、多面的な考察や視座を提供します。また、学芸員や研究者等との対話や交流を通じて、学びが深まるよう努めるとともに、資料は、いつでも誰でも利活用できるようにし、県民の主体的な学びに貢献します。
■学習支援	「ふるさとキャリア教育」の推進や「教育 DX」への対応など、新たな社会的ニーズに確実に対応するとともに、博物館から離れた地域でも、学習の機会が提供できるよう努めます。
■地域連携	資料の利活用により、鳥取県の新たな価値と魅力を見いだし、国内外へ発信し、交流と発展を進めます。また、県民・地域との共同連携による「魅力ある県立博物館」となることで、文化観光やまちづくりなど、多様な地域の活力向上に貢献します。

新しい展示活動について

館内における展示活動では、いつでも誰でも主体的に学びを深められるように、対話や交流が生まれていくしくみを作っていきます。部屋は3つあり、一ノ蔵『とっとりの自然史』、二ノ蔵『とっとりの歴史と民俗』、三ノ蔵『とっとりの藩と城』です。これらの部屋では、鳥取県の自然と人の歴史や暮らしなどを常時、多くの資料とともに紹介しますが、一ノ蔵『とっとりの自然史』では協力団体の方々をはじめとする県民の皆さまと様々な活動も行っていきます。

鳥取藩池田家の大名道具　梅唐草蝶文蒔絵女乗物（当館蔵）

三ノ蔵『とっとりの藩と城』の部屋では、鳥取城跡内にある博物館として、鳥取県の歴史・自然を象徴する「鳥取城跡」とその城山である「久松山」を核とした歴史・自然史・美術工芸の総合的な展示を行います。鳥取県の発展の礎となった鳥取藩や鳥取城の歴史や文化、またその背景について、国内屈指の大名家文書である“鳥取藩政資料”や旧藩主池田家ゆかりの大名道具、絵画、やきものなど多彩な美術工芸品を用いてわかりやすく紹介するとともに、久松山の地質や生物相を事例に、鳥取県の豊かな自然環境について紹介します。

なお、三ノ蔵『とっとりの藩と城』は年間数回の展示替えを行いながら紹介していく予定ですが、第一期である令和7年5月1日（木）から6月29日（日）は、当館の再スタートを記念して企画展として実施します。　（学芸課　川上（かわかみ）　靖（やすし））

■シンボルカラーについて

鳥取県の「宝蔵」として資料を守り続けることを表すために、魔除けや不老長寿を象徴する日本の伝統色の「赤」をシンボルカラーとしています。「赤」の種類は古くから珍重された「猩々緋（しょうじょうひ）」としました。

鳥取県立博物館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM

沿革　～鳥取県立博物館の歩み～

鳥取県立博物館の前身は、昭和22（1947）年に鳥取県立公民館内に設置された「科学研究館」です。その後、昭和24（1949）年に鳥取城跡内の「仁風閣」に移転し、「鳥取県立科学館」となりました。昭和29（1954）年には「鳥取県立科学博物館」に改称され、博物館法に基づく登録博物館となり、昭和39（1964）年には生物・地学・考古・民俗の4部門を扱うようになりました。

昭和47（1972）年10月に、鳥取県立図書館が保管していた鳥取藩池田家資料を受け入れ、新たに美術部門を加え、現在の場所に「鳥取県立博物館」として新築・開館しました。開館時の部門は学芸係（地学・生物・考古・民俗）、美術係、史料係でした。

令和7年（2025）年3月に美術部門が分離独立し、倉吉市に鳥取県立美術館として開館することに伴い、鳥取県立博物館は自然史・歴史・民俗・美術工芸の総合博物館として新たな歩みをはじめました。

学芸員のイチオシ！これ注目
Pick up!

ここでは、当館1階の鳥取県の自然と人の歴史や暮らしなどを常時紹介している展示活動室の資料の中から、学芸員のイチオシする所蔵品をご紹介します。

なんだコレ？イルカじゃないよ!?

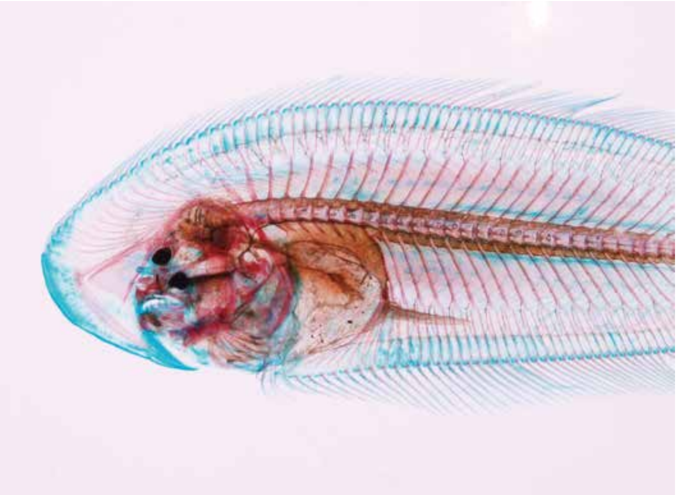
国重要文化財

2連式子持勾玉　湯梨浜町高辻出土

大型の勾玉に小型勾玉が親子のように付いた形の勾玉を、子持勾玉といいます。これはさらに親玉が2つ合体して、小勾玉が16個となった珍しい形をしています。古墳時代中期（5世紀）に祭祀専用品として作られたものです。

小山 浩和（考古）

骨までスケスケ！



クロウシノシタ　（透明骨格標本）全長9.5㎝

魚の筋肉を透明にしつつ、硬骨を赤、軟骨を青に染色して骨格を観察できるようにした標本です。細かい骨の配置が確認できるだけでなく、見た目の美しさも魅力です。

一澤 圭（動物）

神格化した狐

経蔵坊　（桂増坊とも、土人形）
柳屋作　平成

江戸と鳥取を三日で行き来し、藩主が早飛脚として使役したという狐。久松山の中坂神社に祀られています。鳥取市域では、待ちどおしいときなど「経蔵坊が早く着かんかなぁ」と令和の今でも言われます。

福代 宏（民俗）

気になったら博物館で
実際に見てみよう！

アジアに広く分布した魚伏籠漁

魚伏籠「ウグイ」 南部町浅井収集　昭和　高さ75㎝

魚伏籠は底のない筒状の籠です。水田や小川・湖沼の浅瀬の泥を突きながら魚を探し捕らえます。魚伏籠はアジアに広く分布していましたが現在は極めて貴重です。

樫村 賢二（民俗）

植物園との連携で誕生

ヒゴタイ （レプリカ）高さ115㎝

球形の花が特徴。鳥取県内では採集禁止の絶滅危惧種であり、高知県立牧野植物園の協力のもと栽培個体から型どりをして製作しました。

清末 幸久（植物）

鳥取県で初めて発見されました！

ヒサマツミドリシジミ

（乾燥標本）

ヒサマツミドリシジミは、オスの羽が緑色にかがやく美しいチョウで、鳥取県立博物館のうらにある久松山で初めて発見されました。発見地である山の「久松」を訓読みの「ヒサマツ」に変えて名付けられました。

鶴 智之（昆虫）

国宝“童子切”を作刀した安綱の太刀

太刀　銘 安綱 平安後期　刃長77.5㎝　反り3.3㎝

美しい反りがある日本刀は、平安時代末期以降に完成されました。安綱はこの創成期に伯耆国で活躍した刀工で、本作は鳥取藩の家老鵜殿家に伝来した一振りです。　来見田 博基（歴史・近世）

学芸員のイチオシ！これ注目
Pick up!

天守ありし頃の鳥取城全体を描いた珍しい絵巻

とっとりしんぷ ひさまつきんじょう
鳥取新府久松金城（部分）
宝永・正徳年間（1704 ～ 1716）
28 ㎝ ×341 ㎝

元禄5年（1692）に雷火によって焼失した鳥取城の天守と城内御殿の様子を具体的にうかがい知ることができる唯一の絵巻物。のち享保5年（1720）の石黒大火により、ここに描かれた鳥取城は全焼してしまいます。

おおしま よういち
大嶋 陽一（歴史・近世・近現代）

超重量級！の県指定天然記念物

おうぎのせん
扇ノ山の火山弾
八頭郡若桜町産　長径105㎝×短径57㎝、最大周囲174㎝

およそ100万年前、火山活動が活発だった頃に扇ノ山から噴出した火山弾。重さ360 kg。山奥で発見され、数名で手運びして麓まで運ばれたそうです。驚愕です。次にこのような重たい火山弾が見つかるときは初めから麓で見つかってほしいです…！

たなべ よしき
田邉 佳紀（地学）

池田恒興所用と伝わる、風を切るかのような異形の兜

こくろういろぬり いぎょうはりかけかぶと
黒蝋色塗異形張懸兜　江戸（17世紀）

鳥取藩池田家で藩祖・光仲の曽祖父である恒興のものと伝わっていますが、後世の作です。
黒蝋色で燕の尾のような二俣の張出がついたモデル不明の異形の兜です。

やまもと りゅういちろう
山本 隆一朗（歴史・中世）

企画展「とことん！昆虫展」

令和７年７月12日(土)～９月15日(月・祝)
（主催）昆虫展実行委員会、読売新聞社

昆虫は世界から100万種以上が知られています。まだ見つかっていなかったり、名前が付いていなかったりするものも含めると500万種とも1000万種ともいわれています。その数なんと！地球上の全生物種のほぼ半数にもなります。またそのすがた形も多様で、大きな羽で自由に空を飛ぶチョウや、硬いからだと長いツノを持ったカブトムシ、大きな後ろ足でジャンプするバッタなど実に様々です。さらに生活環境も多様で、海中域を除く地球上のありとあらゆる場所に生息しています。このように昆虫は種数、すがた形、生活環境のいずれにおいても、圧倒的に高い多様性をもつ生物といってよいでしょう。

本企画展では、驚異的な多様性をもつ昆虫の「ふしぎ」を“とことん！”展示・解説します。

虫の眼カメラによるトノサマバッタの高精細映像　撮影：栗林 慧

圧巻の巨大昆虫模型や高精細映像

巨大昆虫模型や昆虫の視点から見た高精細映像で、昆虫のすむ世界に迷い込んだような展示を行います。昆虫の飛び立つ瞬間をハイスピードカメラでとらえた驚きの映像なども多数展示します。

国蝶オオムラサキの巨大模型（佐川美術館「めっちゃ昆虫展」、2023年7月）

壁一面の昆虫標本

当館所蔵の昆虫標本をありったけ展示します。世界の昆虫や日本の昆虫、特に鳥取県の昆虫を紹介します。

壁一面の昆虫標本（鳥取県立博物館「すべて見せます展」、2022年11月）

県内の昆虫愛好家のコレクションも多数展示し、壁一面を昆虫標本で埋め尽くします。

生きた昆虫の生体展示

生きた昆虫もたくさんやってきます。子どもたちに大人気のヘラクレスオオカブトをはじめ、世界各地の大型昆虫や珍奇な昆虫を生きた姿で見ることができます。

ヘラクレスオオカブトの生体展示
撮影者：海野和男

昆虫だけをあつかった企画展の開催は、鳥取県立博物館では40年ぶりになります。今年の夏は鳥取県立博物館で昆虫のふしぎな世界を“とことん！”楽しんでください。

（学芸課　鶴（つる） 智之（ともゆき））

■休館日：7月14日（月）・22日（火）・28日（月）
8月4日（月）・18日（月）・25日（月）、9月1日（月）・8日（月）
■観覧料：一般/700円（前売・20名様以上の団体/500円）
※大学生以下・70歳以上・学校教育活動での引率者・障がいのある方・難病患者の方・要介護者等およびその介護者は無料

関連イベント
講演会「昆虫博士にきいてみよう♪図鑑づくりや昆虫調査のこと（仮題）」
講　師：丸山宗利 博士（九州大学総合研究博物館）
開催日：８月11日（月・祝）午前　場所：鳥取県立博物館 講堂・参加無料
※会期中にはこの他にも関連イベントを予定しています。

企画展

「大カプコン展 ―世界を魅了するゲームクリエイション（仮）」

令和7年10月19日（日）～12月7日（日）

（主催）大カプコン展実行委員会、読売新聞社

近年、ゲーム産業の国内市場規模は2兆円を突破、国内ゲーム人口も5000万人を超えました。家庭用テレビゲーム機の登場から半世紀、急激に変化する「ゲーム」は今や文化であり、テクノロジーと表現の領域を横断する総合芸術であり、私たちは認識をアップデートする必要があります。

ゲームソフトメーカーである株式会社カプコンは2023年に創業40周年を迎え、世界中でいまも愛される『ストリートファイター』シリーズや、映画化された『バイオハザード』シリーズなど、多くの人気タイトルを開発してきました。カプコンの歴史を振り返ることは、日本が世界に誇るゲーム文化を捉えなおし、社会や教育の未来を考えていく上でも重要です。

本展では開発者たちの「手」による企画書や原画、ポスターやパッケージなどのグラフィックワーク、体験型コンテンツ、最新技術など、ゲーム誕生の壮大なプロセスとそこに関わるクリエイターたちの想像力と実現力を展覧会という場に投入し、日本が誇るゲーム文化をあらためて捉えなおす機会を創出します。

（学芸課　山本 隆一朗（やまもと りゅういちろう））

©CAPCOM

■休館日：
10月20日（月）・27日（月）、
11月4日（火）・10日（火）・17日（月）・25日（火）、
12月1日（月）

関連イベント
会期中には企画展関連イベントを開催予定です。

※タイトル、内容は変更になる場合があります。

鳥取県立博物館
ニュースレター「宝蔵」No.1
令和7年（2025年）3月28日発行
編集・発行 鳥取県立博物館
住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地
TEL 0857（26）8042（代）
FAX 0857（26）8041
URL https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/
E-mail hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp

博物館 HP

■入館料：常設展／一般180（150）円
（　）内は20名様以上の団体料金
■開館時間：9時～17時（入館は16時30分まで）。一部、19時（入館は18時30分）まで開館の土曜日あり。詳細はお問い合わせください。
■休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日が休館日）
国民の祝日の翌日（土、日、祝日の場合を除く）
年末年始（12月29日～1月3日）
※具体的な休館日等は、ホームページでご確認ください。

■JR鳥取駅からバスで
●Ⓐ100円バス「くる梨」緑コース「⑪仁風閣・県立博物館」下車すぐ
●Ⓑループ麒麟獅子「③鳥取城跡」下車すぐ
●ⓒ砂丘・湖山・賀露方面行「西町」下車、約400m
●Ⓓ市内回り岩倉・中河原方面行「わらべ館前」下車、約600m
■JR鳥取駅からタクシーで…約10分
■鳥取砂丘コナン空港から…鳥取駅行連絡バス「西町」下車、約400m
■お車で…鳥取自動車道・鳥取ICまたは鳥取西ICより約15分
※当館駐車場21台駐車可能・満車の場合は県庁北側駐車場［無料］へ

お客様の満足のその先へ…
MORRIX
株式会社モリックスジャパン

NX NIPPON EXPRESS
日本通運株式会社 鳥取営業課
TEL 0857-28-0202

三和商事株式会社
本社 鳥取市千代水 1-22-2
TEL 0857-23-2627　FAX 0857-23-5941
米子支店 ・ 東伯営業所